1 2 月 6 日 (金)
(第 2 日)

令和6年第4回高森町議会定例会（第2号）

令和6年12月6日
午前10時00分会議
於議場

1. 議事日程

開議宣告

日程第 1 一般質問

議席	氏名	事項	要旨
8	後藤 三治	水道企業会計移行の現状と今後について	1. 本町の簡易水道等の普及率と、部落水道の対応について。 2. 水道企業会計移行の時期と現状について 3. 水道施設の維持管理と新たな水源地確保の計画は。 4. 水道管布設替えの計画と財源の確保について。 5. 企業会計移行後、現体制で対応が可能なのか。
3	児玉 幸之助	ライドシェアについて	町民ニーズを把握するためのアンケート結果及び交通空白地域について 持続可能な交通体系の再構築について
		町民バスや南阿蘇鉄道の公共交通機関の現状と今後の検討について	町民バスアンケートの調査結果について 町民バス無客運航 南阿蘇鉄道の利用状況 南阿蘇鉄道町民限定無料便の運行や高齢者をはじめとする移動弱者（免許証返納者や免許未取得者等）への無料乗車券の配布等の町民への利用促進PRを図ることは可能か（1日1便限定、もしくは日曜日限定）
4	佐藤 武文	文化財保護及び文化活動対策について	文化財の指定と保護の現況について 指定文化財の追加や見直しについて 文化財の保護対策について 誇れる「ふるさと高森」のための文化活動対策について

2.出席議員は次のとおりである。(10名)

1番	白石 豊和 君	2番	武田 栄喜 君
3番	児玉 幸之助 君	4番	佐藤 武文 君
5番	甲斐 節男 君	6番	後藤 巖 君
7番	牛嶋 津世志 君	8番	後藤 三治 君
9番	本田 生一 君	10番	佐伯 金也 君

3.欠席議員は次のとおりである。(0名)

4.地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名(15名)

町 長	草村 大成 君	教 育 長	古庄 泰則 君
総 務 課 長	岩下 徹 君	会 計 課 長	今村 親助 君
税 務 課 長	眞原 友紀 君	農林政策課長	芹口 孝直 君
健康推進課長	津留 大輔 君	生活環境課長	二子石 誠 君
政策推進課長兼TPC事務局長	岩下 雅広 君		
住民福祉課長	石田 昌司 君	建 設 課 長	住吉 勝徳 君
教育委員会事務局長	村上 純一 君	建設課審議員	高崎 康誌 君
総務課課長補佐	植田 雄亮 君	財 政 係 長	児玉 明 君

5.本会議に職務のため出席した者の職氏名(2名)

議会事務局長	緒方 久哉 君	議会事務局係長	久保田 一也君
--------	---------	---------	---------

開議 午前10時00分

-----○-----

議長（牛嶋津世志君）おはようございます。

本日の出席議員が定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。お諮りします。お手元に配付しております日程に従って議事を進めたいと思いますが、御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

議長（牛嶋津世志君）異議なしと認めます。

それでは、高森町議会運営基準を遵守し、日程に従って議事を進めます。

-----○-----

日程第1 休会の件において

議長（牛嶋津世志君）日程第1、休会の件においてを議題といたします。

昨日の定例会初日において、日程第17にて休会の件を議題とした際に、休会の期日を12月9日、12月12日とお諮りしておりましたが、これに12月10日、12月11日を追加し、12月9日から12月12日までといたしたいと思います。御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

議長（牛嶋津世志君）異議なしと認めます。

したがって、12月9日から12月12日までを休会とすることに決定いたしました。

-----○-----

日程第2 一般質問

議長（牛嶋津世志君）日程第2、一般質問を行います。

順番に発言を許します。8番、後藤三治君。

8番（後藤三治君）おはようございます。8番、後藤です。

今回、一般質問の機会をいただきありがとうございました。今回の質問はさきに通告いたしております水道企業会計移行と今後について質問をいたします。

今回、水道事業において、大きな転換期であることと、私が役場に勤務していたとき水道事業に携わっていたことから、当時を思い出しながら質問を行います。

水道の必要性は、清潔な飲料水供給によって健全な生活を送るための基本条件を確保することにあります。清潔な水の提供は、予防や健康増進に直結し、社会全体の福祉を向上させます。特に乳幼児や高齢者など健康に敏感な人々にとって安全な飲料水の確保は、生命線とも言えます。このことから町長がよく言われる町民に安心・安全な水の提供は、行政の使命であると言われるゆえんであります。私が水道

係に勤務していた時期は、昭和の終わりのころであり、当時の水道普及率は50%から60%程度と記憶しております。

そこで、初めの質問は、本町の簡易水道等の普及率と部落水道の対応について伺います。よろしくお願いいたします。

議長（牛嶋津世志君）建設課長、住吉勝徳君。

建設課長（住吉勝徳君）おはようございます。

本町の水道普及率と部落水道の対応ということでございますけれども、本町の水道普及率は、現在96.2%となっております。

また、部落水道として住民の方々に管理されている地区数は14地区でございます。部落水道の皆様に対しましては、施設の整備や修繕などの際に、公共的施設整備事業を活用し、地区から申請があった場合、上限はございますけれども半分を補助しております。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）8番、後藤三治君。

8番（後藤三治君）ただいまの答弁によりますと、現在の町営水道普及率は96.2%で、部落水道として住民の方々に管理されている地区は14地区とのことです。先ほど申しました時期からいたしますと特段の普及率となっておりますが、当時は、各地域や小部落に若い方がおいでで、部落水道の修理や維持をされていたことによるものと思われまゝ。しかし、時代の進展により高齢化が進展し、維持管理に苦慮することから、町にお願いすることとなったものと思われまゝ。残りの3.8%の部落水道地域においても今後丁寧に対応され、安心・安全な飲料水供給に努めていただきますようお願いいたします。

次に、現在、準備を進めておられる水道企業会計の現状と移行時期について伺います。よろしくお願いいたします。

議長（牛嶋津世志君）建設課長、住吉勝徳君。

建設課長（住吉勝徳君）公営企業会計移行の現状ということでございますけれども、昨年の11月から今年の11月までの約1年間で、固定資産整理情報のコンバートデータを作成いたしまして、固定資産台帳システムの導入及び企業会計システムの導入を完了させ、予算科目表を完成させております。

また、高森町簡易水道事業の設置等に関する条例、高森町簡易水道事業会計規則の原案の作成もほぼ完了をいたしております。

これからの作業といたしましては、現在、委託業者のほうに予算科目表を渡しておりますので、チェックと同時並行で企業会計システムにて予算組みが行えるように作業をしていただいております。その作業が12月中には終了する予定ですので、

その後、テストランを実施し、実際に決算書まで作成し、シミュレーションを行い、本格運用に備えております。

また、企業会計独自の指定金融機関との調整も金融機関及びシステム業者と調整を行い、年度内に公金収納データ作成システム導入及び公金収納データ消込システム改修が完了するように現在動いております。令和7年4月1日からの意向に向けて、職員も一生懸命全力で作業を行っているところでございます。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）8番、後藤三治君。

8番（後藤三治君）ただいまの答弁では、昨年の11月から本年11月までの1年間で固定資産整理情報のコンバートデータを作成し、同台帳システムの導入及び企業会計システムの導入を完了させ、予算科目表も完成しているとのことであります。

また、高森町簡易水道事業の設置等に関する条例、簡易水道事業会計規則の原案の作成等もほぼ完成し、実際に決算書まで作成したシミュレーションを行い、本格運用に備えるとのことであります。

また、企業会計独自の指定金融機関との調整も現在進めているということで、今定例会予算の中でも予算計上されていることを確認いたしております。

水道事業は税金ではなく町民の皆さまからいただいた水道料金で事業を行う独立採算制で経営を行っており、これまでの特別会計（単式簿記）から地方公営企業法の財務適用とした地方公営企業会計（複式簿記）に移行することとなります。この企業会計では、答弁ありましたとおり、固定資産として水道水の給水に必要な配水池、配水管、浄水場など減価償却費として会計上、計上することとなり、これまでの特別会計以上の詳細な会計業務が発生することとなります。加えて、現在の水道施設は、旧町村単位、部落単位、子部落単位に設置されたもので、整理後、相当の年数が経過しており、水源の水量が減少している箇所や新たな水源地を必要とする箇所も見受けられます。今のところ問題が起きていなくても、万が一の事態を考慮し、現在の水道施設維持管理状況と新たな水源地確保の計画について伺います。よろしく申し上げます。

議長（牛嶋津世志君）建設課長、住吉勝徳君。

建設課長（住吉勝徳君）近年、水道事業を取り巻く環境の変化により、水道事業の経営状態は脆弱化しております。水道施設の点検及び滅菌施設の点検、塩素の補充、草刈りなどは、少ない職員数であるため委託業者に頼らざるをえなくなり、その頻度も経営状態があまりよくない状態であるため、最小限度の委託契約となっております。

また、布設替えを行う余裕もなく、現在は漏水の情報を得たら漏水の情報を確認

し、修繕するといった対症療法的な維持管理を行っているのが現状でございます。

また、新たな水源地の確保については、候補地の情報収集はできております。しかし、今すぐ対応できるか問われると、人力的にも不足しており、財政的にも非常に厳しいのが現状となっております。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）8番、後藤三治君。

8番（後藤三治君）ただいまの答弁では、水道事業を取り巻く環境の変化により水道事業の経営状態は脆弱化しており、水道施設の維持管理状況は職員数が少ないため、最小限度の業務委託に頼らざるを得ない状況とのことであります。

また、新たな水源地確保計画については、候補地の情報収集はできているが、人力的にも財政的にも非常に厳しい現状であるとのこと。そのような状況ではありますが、必ず行わなければならない水道管布設替えについて質問をいたします。

この水道管布設替えについては、これまでも幾度となく質問いたしましたし、今年9月議会定例会においても同僚議員から質問がっております。御承知のとおり、現在、埋設されている水道管は埋設年度が古く、埋設素材にも問題を多く含んでおります。一たび、その路線で破損箇所があれば、修繕しても新たな破損箇所が起こる状況にあります。このような状況がいつ起こるか、誰も予測はできません。また、至るところで同時に発生することも予想されます。町民に安心・安全な飲料水の供給を行う上からも、計画的な水道管布設替え計画を行う必要を強く感じます。

そこで質問いたします。私が議員になり4期12年がたとうとしておりますが、新設工事や修繕工事を除き、水道管の布設替えについての予算は記憶にございません。これまでの経緯について、さらには、今後の布設替えの計画についてお伺いいたします。よろしく申し上げます。

議長（牛嶋津世志君）建設課長、住吉勝徳君。

建設課長（住吉勝徳君）布設替え事業についてのこれまでと今後ということでございますけれども、布設替えについては、平成28年度までは毎年度のように起債を活用して実施しておりました。平成28年度を最後に7年間実施されておられません。これはなぜかと申しますと、委託料につきまして、平成28年度までは毎年度布設替えの設計業務委託が100万円から200万円程度の支出となっておりました。ところが、平成29年度からは上色見地区の電気探査業務委託や水道施設の改良設計業務委託等で毎年度600万円から800万円ほどの支出に変わり、このような業務委託は起債対象とならず、布設替え事業を行う余裕がなかったためでございます。

その結果、以前は、毎年度2,800万円程度でございました繰越金も、令和3

年度には430万円まで減少をしました。現在は、電気代高騰、物価高騰により需用費は増加傾向にあり、企業会計移行を控える中ではございますが、現在の経営のままでは今後ますます布設替え事業の実施が困難となっております。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）8番、後藤三治君。

8番（後藤三治君）答弁では、平成28年度までは毎年度のように起債を活用し実施してきたが、ここ7年間は実施していないとのことであります。担当のほうから資料もちょっといただいておりますが、平成25年、26年、27年、28年、答弁いただきましたように、平成28年までの工事記録をいただきますと、大きいもので1,600万円、小さいものになりますと300万円、私からいたしますとこれは布設替えではないと、これは要するに、あくまでも修繕をしたという程度の予算だと私は思います。私が水道係にいたときには、1工事あたりウン千万円は当然かかるというふうに思っておりますので、今答弁いただいたように、工事はされたということですが、私が思う工事とは相当かけ離れているんじゃないかなというふうに思っております。

また、非常にこの7年間厳しい状況の中でやりくりをしてきたというお話もいただきました。確かに、いろいろな要件はあったと思いますが、先ほどから言いますように、町民に安心・安全な水を送るという基本からいたしますと、どういう事態であっても何らかの予算を付けて多少なりと布設替えをしていくべきではなかったかなというふうに私は思います。一言で水道管の布設替えをお願いしても、聞くところによりますと、高森町水道事業における配水管の総延長は8万1,824メートルであるというふうにお聞きしております。これは埋設管でございますので、実際の数字からは少し離れるかなと思いますが、これもこの数字というのは、多分本管部分ではないかなと。本管から各家庭に行くメーター機までの水道管、これを足しますとウン十万メートルになるんじゃないかなと思います。先ほども申しましたように、こういった箇所、古くなった水道管がもしあるところで破損しますと、連鎖的にさらなる破損が出てきて、そうしたときには町民に多大な御迷惑をかけるということからも、水道管の布設替えをこれまでお願いしてきたところであります。ただ、そういった距離がある布設替えを計画するとなれば、その財源は計り知れないものとなります。

また、水道管布設替えを補助で行うと言っても、なかなかそれに該当するような補助が現在ないというふうにもお聞きしております。補助がないから起債を使ってということになりますと、この起債も同じ路線では何度も使えません。そういうことからしても、やはり計画的に10年おきぐらいにその箇所に戻ってくるような計

画を立てないと、大切なその起債も活用できないと。すべてが独自でやらなければならないという現状というふうにお聞きしております。

ただ、やはり布設替えとなりますと、先ほど言いましたように、大きな予算を伴うわけでございます。そのほとんどが、先ほど言いましたように、起債は活用できても単独事業になるかなというふうに思っております。

ここで私の今現在、思っていることをちょっと述べさせていただきたいと思いますが、単独事業であれば、何とか予算内を切り詰めて、毎年少しずつ布設替えに充てていただきたいなというふうに思うところではありますが、私は9月議会でお尋ねいたしました町税の大幅な伸びによる税収を活用してはと考えるものであります。私が知る限りでは、町税は毎年度5億円から6億円の間に推移していたと記憶しております。よくよその町村から高森町の町税はどれくらいですかと聞かれても、そういうふうにお答えしていたように思っておりましたので、高森町はそれくらいかなと思ってたんですが、今年9月の決算の中で、町税が一気に伸びまして5億円の1.5倍、8億円というようなことで、令和5年度に2億5,000万円の税収の伸びということでお話を伺いました。この税収の伸びにつきましては、執行部におきまして、それぞれの活用方法はお考えがあるというふうに思っておりますし、そのようにされるんじゃないかなと思っておりますが、よく町長が言われますように、町長も私と同じ14年前に町長になられて14年間たちましたが、よく町長が就任されたときに、財政調整基金、当時3億円くらいだったと。現在、私、令和5年度末を見ますと、財政調整基金も16億円ほどになっております。もう本当に日頃から町長がなるべく事業は補助を活用してということで、そういった蓄えをずっと積み重ねてこられた結果だと思えます。確かに財政調整基金は、多くあることが素晴らしいことだと思いますが、やはり、必要なときにはそれを活用する、そういう方策も大事じゃないかなと。14年前に財政調整基金が3億円しかなかったと、裏を返せば、その当時の町長もやはり今必要な部分に充ててきてそれだけの余力しかなかったと。逆に言えばそういう考えもできます。今残っております16億円をすぐに全部使えというのではなくて、やはり、その一部を活用しながら生活に寄与していく、こういうことも大事じゃないかなというふうに思っているところでございます。

令和5年度から今年度の財政調整基金の繰越しが3億円ほどあるというふうに聞いております。これはその年、その年の事情によりまして、貯金額がどうなるかというのはまだ定かではありませんけれども、少なくとも2億5,000万円、今までの町税から伸びたということであれば、そのうちの5,000万円、あるいは1億円程度は、この水道管の布設替えに恒久的に充てていただく、これが必要じゃな

いかなというふうに思います。でないと、やはり、何度も言いますが、もし何かあったときには遅いと思います。もう住民の方にとって水道というのは、要するに、生命に勝る大事な資源でありますので、これをやはりしっかり守っていく、これは行政の責務と私は思っておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

今、私が言ひましたのは、一例でございます。町のほうで何とか工夫をして、少なくとも5,000万円程度の毎年布設替え計画をされていくということが肝要かなというふうに思っております。

ちなみに、今現在、水道係では、やはり水道メーター機を取替えを毎年度、計画的に実施されております。やはり計量器に誤りがあるてはいけないと。町民からいただく水道料金を正確にするために、やはり古くなったものから随時交換をすると。まさしく水道管についても同じことだと思ひますので、どうかそのように取組をしていただければというふうに思っているところでございます。

いろいろとお話をさせていただきましたが、最後の質問となります。企業会計移行後、現体制で対応できるかについてお伺ひいたします。

現議会では、町民に対し安心安全な飲料水の供給を念頭に置き、あらゆる水問題対応として水資源対策特別委員会を設置し、部落水道の公営化や公共水道の諸問題につき協議を行っております。そんな中、今般の水道企業会計移行準備に伴い、担当課の苦勞は相当なものであると認識いたしているところであります。あわせて、日々の業務を行ひながらの移行準備、移行後の業務遂行、その後の水道運用を行う上で、現体制での事務処理は困難な状況にあると思ひます。私が水道課にいたときは、普及率も先ほど申しましたとおり、50から60%である中ではありましたが、当時の水道係員は、事務職2名、技術職3名体制でありました。簡易な引込線修繕等は技術職が行ひ、水道管布設替えの設計や水不足対応として配水タンク増設の設計も委託に出すことなく、自分たち職員が設計を行ひ、業務を行っております。

また、水道施設、とりわけ配水地の草刈りや柵等の修理、そして、タンク内の清掃もすべて自分たちで行っております。当時と今では状況が大きく変わったことは認めますが、水道の基本理念であります町民に安心・安全な飲料水を供給することには変わりないものと考えます。

もう一つ、現行の水道使用料については、公営化された時期によって使用料に差が生じております。先ほどお聞きしたとおり、普及率も100%に近い今日、同じ水道利用者であるならば、町内料金の一本化も考える時期に来ているのではと考えます。

また、補償を受けておられる方々に対しても、現況や今後に対し、丁寧な説明を行ひ、協力をいただく必要を感じております。これから一企業として厳しさを増す

水道事業を考えたとき、係の増員はもとより、仮称ではありますが、水道課や局として体制を強化され、事業推進を図られる必要を感じます。

そこで、最後の質問は、まず建設課長に、現体制で水道企業会計を行うことができるのか。そして、最後に町長には、今までたくさん質問いたしましたが、部落水道地区の公営化、水道施設の維持管理、恒久的な配水管布設替え、そして、これからの水道水の安心・安全な供給のための係の増員や、課として強化の考えはないのか伺いたいと思います。よろしくお願ひいたします。

議長（牛嶋津世志君）建設課長、住吉勝徳君。

建設課長（住吉勝徳君）先ほどの答弁の中にもございましたけれども、近年、水道事業の経営状態は脆弱化しております。水道施設の点検及び滅菌施設の点検、塩素の補充、草刈りなどは、少ない職員数であるため、業務委託に頼らざるを得なくなっております。布設替えを行う余裕もございません。平成27年度からは、水道係は係長、係員の2名体制に減少をしております。その少ない体制の中で、係員は近年増加傾向にある修繕の現場対応、電話対応、窓口業務に日々追われており、係長につきましては、水道事業運営のすべてを担う中で、企業会計移行に関する業務。水道料金徴収業務、さらには、農業用水供給事業に関する業務を担っており、物価上昇の中で、現在、最小限度の運営を続けるのが精いっぱいでございます。さらに、私も水道係に3年ほど勤務していましたが、一番苦勞する点といたしましては、いつどこで発生するか分からない水道トラブル、いわゆる漏水、断水がございます。これにつきましては、土日及び時間帯も関係なく役場に呼び出される状況であります。多いときには、毎週土日呼び出されるときもあり、自分の時間等もなくなるのが現状でございます。

また、一たび水不足が起きれば、短くても二、三週間、長ければ2か月程度、水不足等の対応に追われ、通常業務にかなり影響が出ることもあり、その分、残業を行っております。10月15日からは、土木係兼務という形ではありますが、1名増員がっており、企業会計移行に伴う各金融機関との打合せや、公金収納データ作成及び収納消込システムに関する業務、例規整備等の業務を担っていただいております。

しかし、水道事業を取り巻く環境の変化が著しい中、将来にわたり、今後も安定して安心・安全な水を供給していくことが最重要である中で、現体制での水道企業会計移行後対応できるかということですが、現在、様々な関係機関と協議を行っているところでございますが、今後は、かなり水道係において公営企業会計の業務が増えてくるのが明確になっております。

また、会計業務も当然別々になり、現会計課の業務も今後は倍の業務量になると

いうふうに思っております。そのようなことで、現水道係の人数の体制のままではかなり厳しい状況にあるのが現状です。仮に、水道経営部門と水道維持管理部門と体制を分けて業務を行うことができるのであれば、少しは変わってくるのかなと思っておりますが、現状のままでは厳しいのが現状です。

最後に、建設課、限られた人員の中で日々業務を行っております。土木係、住宅係、水道係、課員全員よく毎日頑張っているなど私は実感をしております。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）町長、草村大成君。

町長（草村大成君）おはようございます。御質問ありがとうございます。住吉課長のすばらしい答弁で、大変、水道係も経験しておりましたが、課長としてよく理解しているなということを思っています。

まず、私と後藤議員、もう14年たちますので15年目に入ると思います。議員の考え方は、当時3億円は事業をやれたという見方もあると。確かにそうですが、15年前に私就任したときに3億円でバトンタッチするんだと。これだけ起債があってバトンタッチするんだと。じゃあ何から手を付ければいいのかと。つまり、そこでは3億円ですけど、それから後何年かの今後の事業をどうやって計画されていたんだろうと。道路の継続事業がたくさんあって、ほとんどハード事業で継続組まれていて、そしてなおかつ、一番御承知だと思いますが、大変、以前の職員さんに苦勞をかけたと思いますが、三位一体の改革で職員数も減少、役職も減らす、そういうところの中でバトンを受けました。当時、私、議会でも議事録を多分平成23年の6月から9月議会だったと思いますが、やはり貯金をもっと増やさなければいけないと、借金を減らして。この水道の課題は、町長就任後、約1年後ぐらいにはある程度理解しておりました。そして、これはかなり時間がかかる。もしくは、当時、一番思ったのが、実際、後藤三治議員がおっしゃられた提案は正論でありまして、なおかつこれをやらなければいけないというのは、議員さんも分かっていましたし私も分かっております。やるためには、やはりほかの事業もやっていながらこれも計画的にやっていくと。当時、ふるさと納税とかの制度もありませんし、税収伸ばすしかない。ただし、人口は減少している。なおかつ、議員一番御存じですけど、議員もそのとき1期目だったと思いますが、それまでの議員さん、やはり、当時なられていた議員さんほとんどの要望が道路整備だったんです。側溝、道路整備、もしくは学校だったり地域の要望、それに一辺倒で水道のことを言われたのは後藤三治議員だけだったです。正直申し上げまして。それと同時に、今度は教育、又は特に当時防災、つまり今の防災体制、消防車からすべて老朽化しておりまして、これを順次替えていかなければいけない。また、給水車もない。おっしゃるように

安心・安全に努めるためには、いざというときの対応として、やはり給水車でも持ってなければなかなか難しいだろうということも当時でした。その上で、今回、御質問にお答えさせていただきますが、まず後藤議員、現在、令和5年末の決算で財政調整基金は23億9,000万円まで増えております。私が3億円弱でバトンをいただきましたので、実際、おっしゃるとおりに20億円くらい増えております。それと同時に、町税の大幅の伸び、これは当然税金の伸びもそうでございますが、現税務課、もしくはこれまでの税務課の職員が頑張っていたいて、これは今、軽自動車も含めてほぼ100%の収納率で頑張っていたいてるおかげだと思いますし、町民の皆さまの御理解が進んできてるかなと思います。そして、この問題を語るに県内で、実は私の非常に懇意にしております美里町、これは御承知のように砥用町と中央町で合併したんですけど、砥用と本町の規模間的には、非常に似ております。ただし、現在、砥用のほうは年間の900万円くらいが修繕だけでそれだけかかっているということで、美里町は6年計画で費用が約30億円以上の水道の町営水道化プラスその補修計画含めて、現在スタートをされたばかりでございます。上田町長にいろんなお話を聞きますと、ほかの道路事業、まずハード事業をほとんどカットしたと。カットする計画。それと、教育施設の新設だったり何かをほぼカットで、水道に起債を全額、議員がおっしゃるように補助事業がありませんので、単独でやらなければいけないと。それでもやはり水道は大事だということで、町長が決断をなされて、これはマスコミのほうにも大きく数年前にこの計画、実は載って、やっとスタートしたばかりです。本当に頑張られて、あまり目立たない事業ですけど、熊本県内でも本当によく考えられた計画だなと、私もその計画も見ております。例えば、砥用だけで本管の部分だけ15万7,935メートルあるんですよ、砥用は水道が。なので、とても厳しいという状況です。そして、人員のほうもしっかり配置されているということです。

そして、議員にお答えをさせていただきますが、今言ったように、布設替えについては、高額な金額がかかることが間違いないと当時から分かっておりましたので、議員おっしゃるように、税収の伸び及び財政調整基金をほかの事業も進めながら水道事業ができる財力というのが、今現状で見えてまいりました。ですので、私はやはり考えて進めるべきと思います。ほかのやらなければいけない、当然、防災、安全、そして教育、福祉と、中央学園構想もあります。これも数十億円かかるでしょう。多分学校の新設とか移設になればですね。町民の方、子供さんがいらっしやらない方、やはり体育館を造ってくれ、そして運動場が欲しい。また、議員さんは道路を造ってほしい、地域の要望は道路だということも言われます。そういう中でも、やはり財政調整基金が約30億円、今24億円です。30億円と将来の今やっ

てる事業のこれから10年間ぐらいの起債の償還、要は、私が町長じゃなくても、皆さんが議員じゃなくても、次の世代のときも起債の償還がある程度できる償還基金をきちんとためた上で、それが視野に入った時点で、私は議員がずっとおっしゃられた水道の全布設替え、つまり計画の新たな見直しというところを取り組むべきだというふうに考えておりました。ですので、どうしてもその手前のもし何かあったときのため、災害対応も含めて給水車に関しては議会にお願いをして、町の規模であり得ない3台を購入させていただいて、何かあればそういう水をとにかく届けるということだけには欠かせないような環境に持ってきていたつもりでございます。ですので、今後は、やはり計画というのは必要でありまして、仮称で言うと、高森町水道管理新事業計画ですか、そういう形の名前になると思いますが、そこが視野に入ってきて、これをやはりやっていくことによって、誰が町長だろうが議員だろうが課長だろうが、やはりきちんと進めていくと。ただし、そこには金の担保がないと、財源の担保がないと絵に描いた餅になりますので、そこをもう視野に入ってきた時期かなというふうに思っております。

部落水道の公営化ですね、これも現在は公共的施設整備事業を活用して半分補助というところですけど、公営化に関しても、これはまた御承知のように、水道料金の課題もありますので、しっかりその中で検討しながら考えていくべきだというふうに思っております。

そして、係員の増員ですね、新しい課の設置というところでございます。今回、公営化ということで単式簿記から複式簿記、ある意味もう民間ということで、特に職員さん、多分ほぼやられたことがないかと思えます。民間の財務諸表すべて決算書の見方を果たして誰が見れるのか。もしくはOBの方でも見れるはずがないわけなんです。民間ですごく経営を本気でやってきた人というのは、決算書を見るだけですべてが分かってしまうレベルがあると思えますが、私もそれなりに民間の決算書だったら見れると思えますが、今後、公営化に向けて人員の確保、この公営化のみならず、今回、議会が長く議論をして熟慮していただいて、水の補償問題もやはり新しいステージ、町民の理解を得ながら、補償を受けられる被災を受けられた方の理解を得ながら、新しい形が必要だという議会からの方向性も示していただきましたので、この二つを足し合わせた形ができる人員配置を行いたいというふうに思っています。まずは、1月1日付でそこに対応できる管理職及び配置体制を考えていきたいというふうに思っております。そして、最終的には、新しい課の設置については、これはいろいろ検討が必要ですが、現在、生活環境課がございます。生活に一番直接関わるこの水問題、生活環境課を作ったとき、ネーミングは当然住民の生活の環境のところですけど、当然、そこには水道水、生活水というところが絡んでき

ますので、そういうところも視野に入れて、実は名前を考えました。ですので、生活と環境と水道的なところを、やはり今後もう一度考え直して検討することというのは必要ではないかなというふうに思っております。新しい課はそうやって検討をいたしますが、係員に関しては、しっかりスピード感を持って配置をしたい。そして、現在、聞くところによりますと、美里町、この事業をやるために増員されているというところですので、最終的に住吉課長がさっき述べられたように、管理部門と運営部門、管理改修と運営經理の部門、そこに分けてできる形をするべきではないかなというふうに思っております。町民の皆さまも議会をお聞きになられて、後藤議員がずっと水道のことをこれまで何度も言われたことも御存じだと思います。やらなければいけないことは十分承知いたしておりますし、今回、水の補償問題のアップデートというところも課題として出てまいりました。それに向けてスピード感を持って取り組む体制を整えて、そして、財源的にも、確かに単独事業になります。しかし、14年前とは違う、現在、高森の財政がございまして、我慢しながら無駄遣いをするのではなくて、きちんとした計画で議員からの提案もあるように、税収も伸びてる部分も充てることも必要でありますし、もしくは、財政調整基金を使って財源の運用を、ほかの自治体がチャレンジしてない運用をやって利子で支払っていくという、そういう挑戦的なことというのは、行政では難しいかとは思いますが、でも、できる場所があれば、そういう得意分野を伸ばしていくことによって財源の確保ができるのではないかと。財源がなければ、一番きつい思いをするのは、もちろん町民の方はそうでございますが、やはり後藤議員もいらっしゃった役場の職員が、やはり財源がないと一番きついわけです。町民の方も言われて、私からも言われて、いろんな方からも何でかということをお聞かせしますので、この財源、お金の確保をしっかりめどが立ってきたので、これから真摯に無駄遣いするわけではない計画づくりと体制づくりは、1月1日からやっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（牛嶋津世志君）8番、後藤三治君。

8番（後藤三治君）建設課長におかれましては、担当課長としてやっぱり今、課の抱えている問題、率直な気持ちで御答弁いただきましてありがとうございました。私も常日頃からそういうふうに思っておりましたので、あえて課長の気持ちをお聞かせいただいたところです。

その上で、町長には本日の質問に対する総括的な御答弁をいただきました。水道事業に携わってきた者として、また、今後の水道をやはり一緒に考える者として、町長が前向きな御答弁をいただきまして、本当にありがとうございます。多分、今

の答弁を聞かれて、課長をはじめ課員の方もほっとされているんじゃないかなと。ほっとするだけじゃなくて、仕事にまた邁進していただきたいというふうに思います。本当にこれまで何度も質問させていただき、今日ほど明確な御回答をいただいたのが初めてでございます。本当にありがとうございます。やはり町民の方が水に対して安心感を持つというのが一番大事だと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと申します。

最後になりますが、本年ももう残りわずかでございます。水道係にとりましては、今からが勝負です。寒くなることがやはり仕事が増える要因になります。私も現役時代、年の間もなく現場に出た経験もあります。そういうことが起きないように、常日頃からの整備に努めていただきたいと申します。新しい年をそういうことのない中で迎えられるようにしていただきたいということをお願いして、質問を終わります。ありがとうございました。

議長（牛嶋津世志君）8番、後藤三治君の質問を終わります。

お諮り申します。ここでしばらく休憩したいと申しますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（牛嶋津世志君）それでは、11時5分から始めたいと申します。ちょっと時間厳しいですが、よろしくお願ひいたします。

- - - - - ○ - - - - -

休憩 午前10時57分

再開 午前11時05分

- - - - - ○ - - - - -

議長（牛嶋津世志君）休憩前に引き続き、一般質問を続けます。3番、児玉幸之助君。3番（児玉幸之助君）3番、児玉です。

師走を迎え、草村町長、職員、町民の皆さん、ますます御活躍のことだとお喜び申し上げます。

本年もたくさんの感謝や反省をして振り返る時期になりました。

今回、ライドシェアについて、二つ目が町民バス、南阿蘇鉄道の公共交通機関の現状と今後の検討について質問をさせていただきます。

高森町では、高齢化、過疎化が進んでいます。今後、さらに公共交通の重要性が増していくものと考えています。

そこで質問です。本年度、政策推進課で自治体のライドシェア実証実験の一環として、町民のニーズを把握するため、アンケート調査を行われましたが、そのアンケート結果及び町の空白地域をどのように考えていらっしゃるのかを政策推進課長にお尋ねいたします。

議長（牛嶋津世志君）政策推進課長、岩下雅広君。

政策推進課長（岩下雅広君）おはようございます。

町では、国土交通省の共創・Ma a Sプロジェクト事業により、8月に住民の方を対象に公共交通機関の利用実態や潜在需要を把握するためのアンケート調査を実施し、207世帯より回答をいただきました。そのアンケート結果といたしましては、9割強の世帯の方が1台以上の自家用車を所有しているものの、自家用車の運転以外での日常的な不安を抱えておられまして、今後の高齢化を鑑みて免許返納後の交通手段の確保が必要といった複数の回答があるなど、住民の方が主に利便性の観点から公共交通の拡充の重要性を認識していることが分かりました。

また、交通空白地帯につきましては、本町の場合は、二つの方向から考える必要があると感じております。

まず、一つ目が、地域による交通空白地帯で、野尻、草部地区については、町民バスや乗合タクシー以外の公共交通手段がなく、交通空白地帯であると言えます。二つ目が、時間帯による交通空白地帯の発生で、こちらにつきましては、町内のタクシー会社が20時30分までの配車運行となっておりますので、夜間及び観光客が多く訪れる休日については、町内全域が交通空白地帯と言えるのではないかと考えております。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）3番、児玉幸之助君。

3番（児玉幸之助君）ありがとうございました。

今後、高齢化に伴い交通空白地域のみならず、町内全域での新たな交通手段の確保は、将来に向けた大きな課題だと私も考えています。

さて、総務文教常任委員会では、11月20日から21日、議員研修の一環として、別府市でライドシェアの現状について研修を行いました。別府市では、定時・定路線でのライドシェアを6月から実施しており、12月よりタクシー会社の主導でドアツードア形式でのライドシェアを実施するとのことでしたが、アプリの運営会社や体制等の不安も大きく、市としては継続が厳しいのではないかと感じているとのことでした。

そこで、交通体系の構築について明確な回答があるわけではなく、試行錯誤、トライアンドエラーを繰り返しながら、よりよいものを作っていくことが必要だと感じたところです。

そこで質問です。高森町として持続可能な交通体系の再構築について、どのような考えなのかをお伺いいたします。

議長（牛嶋津世志君）政策推進課長、岩下雅広君。

政策推進課長（岩下雅広君）現在、町での交通体系としましては、南阿蘇鉄道や快速たかもり号を1次交通として、タクシーや町民バス、乗合タクシー又はレンタカーやレンタサイクルなどの2次交通がある交通体系となっております。このような現状の中、町では新たな交通手段として、2月より週末及び休日を中心に、タクシー優先配車を行う自治体ライドシェアの実証実験を行うこととしております。持続可能な交通体系の再構築につきましては、利用者の利便性向上が最大の目的となりますが、もう一方では、現状の交通事業者の経営を圧迫しない現状に合わせた形での再構築が必要となってまいります。運転手の不足など多くの課題を抱えていく中で、よりよい交通体系が構築できるよう、今後も関係機関との協議を進めていきたいと考えております。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）3番、児玉幸之助君。

3番（児玉幸之助君）ありがとうございました。

実は、今朝、回覧のほうを見まして、ライドシェアのドライバー募集の回覧が既に回ってまいりました。その中で、私もいろんな形でこの募集に対して、1人でも多くの方が高森町のために貢献していただいた上で募集をしていただけたらありがたいなと思ったところです。ぜひともライドシェア運行により地域経済の回復を支援していただき、今後も関係機関との協議を進めていただきたいと思います。

続きまして、町の2次交通の根幹となっております町民バスについてお尋ねいたします。11月に住民向けにアンケートを行っていましたが、その調査についてお尋ねいたします。

議長（牛嶋津世志君）政策推進課長、岩下雅広君。

政策推進課長（岩下雅広君）町では、町民バス運営計画の一環といたしまして、11月に住民の方へバスの利用頻度や色見環状線の路線変更、草部南部線、草部北部線の第3便の乗合タクシーへの変更等に対するアンケート調査を実施いたしまして、158世帯より御回答をいただきました。そのアンケートでは、主に二つの項目について調査を行いました。

まず、一つ目として、上色見熊野座神社への観光客や色見の広域農道沿いの住民増加に伴う利用者の増加が見込める現行の色見環状線ルートの変更について、賛成が83件、反対が2件、どちらでもないが60件、未回答が13件で、53%の方が賛成という結果でした。

次の二つ目として、現行の町民バス路線の中で、比較的町外利用者が多いと思われる草部南部と北部線の第3便を乗合タクシーに変更することにつきましては、賛成が95件、反対が4件、どちらでもないが47件、未回答が12件で、60%の

方が賛成という結果でございました。その他の意見としましては、今は自分で車を運転できるので必要ないが、将来的に必要なになるので何らかの形で継続してほしいという意見や、スクールバスとの兼用も検討してほしいなどの意見がありました。

今回の調査結果を受けて、持続可能な町民バス運営のため、先ほど答弁いたしました2次交通を含めた交通体系の再構築に向けて必要な見直しを行うとともに、関係機関との協議検討を継続していきたいと思っております。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）3番、児玉幸之助君。

3番（児玉幸之助君）ありがとうございます。

ぜひ町民の声を反映していただき、必要な見直しを行っていただき、協議検討を継続していただきたいと思います。

続いて、町民バスの無客運行についてお尋ねします。私もよく町民の方から乗客の乗っていない町民バスが走っているとお話をお聞きします。

そこで、実際の無客運行となっている便はあるのか。あるとしたら、どれくらいの便が、そのようなことが起きているのかをお尋ねいたします。

議長（牛嶋津世志君）政策推進課長、岩下雅広君。

政策推進課長（岩下雅広君）現在、町民バスの路線といたしまして、色見環状線の右回りが毎日1日3便、色見環状線の左回りが毎日1日4便、河原線が毎週月曜日と木曜日の1日2便、草部南部線が毎週月曜日と木曜日の1日3便、津留・野尻線が毎週月曜日と木曜日の1日2便、尾下線が毎週火曜日と金曜日の1日2便、草部北部線が毎週火曜日と金曜日の1日3便となっております。各路線ごとの昨年度1年間の月ごとの乗車記録によると、それぞれ1か月単位で全く乗車のなかった路線はありませんでした。ただ、これを週と日に計算するために、毎日運行している色見環状線を除きまして、週2回運行している路線で年間乗車数を12か月で割った月平均の乗車数で最も少なかった路線は、草部北部線の3便目で、月約7名の乗車でした。さらに、それぞれの便ごとの月平均乗車数を月に8回運行するとして、1回あたりの乗車数を算出すると、草部南部線第1便目を除き、すべてが5名以下の乗車数ということでした。

また、この計算方法で1回あたりの乗車数が1人以下の草部北部線の3便目が無客運行に該当することと思われまます。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）3番、児玉幸之助君。

3番（児玉幸之助君）現状報告、ありがとうございます。

政策推進課にはより効率的な多くの住民が利用できるような町民バスの路線や時

刻の改定について、継続して取り組んでいくように要望いたします。

続きまして、町の1次交通で町の交通体系の核となる南阿蘇鉄道についてお尋ねいたします。昨年の7月全線開通から分かる範囲内で構いませんので、直近の南阿蘇鉄道の利用状況について、政策推進課長にお尋ねいたします。

議長（牛嶋津世志君）政策推進課長、岩下雅広君。

政策推進課長（岩下雅広君）南阿蘇鉄道の利用状況につきましては、昨年7月の全線運転再開以来、町民の皆さまに積極的に御利用いただいたこともありまして、令和5年度の輸送人員は20万3,895人となっております。全線開通から9か月で、熊本地震前の平成27年度の輸送人員25万7,172人に迫る数字となっております。

また、本年度の輸送人員についてですが、4月から9月までの上半期実績で14万2,841人となっております。平成27年度の輸送人員を超えることを現在期待しているところでございます。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）3番、児玉幸之助君。

3番（児玉幸之助君）ありがとうございます。

今後も各種の集客活動等を展開していただいて、現状の輸送人員が維持されることを私も期待しております。

次は、最後の質問となります。今後、南阿蘇鉄道の安定的な運営のために町民のさらなる利用向上、町民と南阿蘇鉄道との距離が近くなる必要性があると考えています。

そこで私からの提案ですが、利用者数が少ない便に対する町民限定無料便の適用と、通勤快速や免許返納者などの交通弱者への無料乗車券の配付等を行い、町民への南阿蘇鉄道利用促進プロモーションを行えば、今後の継続した町民利用につながるものと考えていますが、そこで町長のお考えをいかがかと思えます。よろしくお願いたします。

議長（牛嶋津世志君）町長、草村大成君。

町長（草村大成君）まず、議員も南鉄の利用を幾度となく行っていただきまして、お礼を申し上げます。今、課長が申し上げましたように、地震前の平成27年を上回るぐらいのレベルで、今推移しているということです。大きく違うところが1点ございまして、来町者、つまり駅に来られた数というのは、平成27年どころでの比較ではなく、多分歴史上、こんな多く来られている人数はない状況ぐらい、要は南鉄は利用されないが駅に来られている方が多いということです。駅は新しいということもあるかと思えます。同時に、駅の購買、要は物販がこれまでとはちょっと比

較対象にならない程度増えておりまして、特に、今年商品開発していただきましたワンピースのクッキーや新しいお菓子に関しては、非常に伸びがいいとございます。そういう中で、南鉄のよりまた利用をするということで、議員がおっしゃりたい意味はよく分かっております。無料便運行については可能です。現在の運行ダイヤの1便をそのまま無料便にすることはできますが、町民の方と町民以外の方の区別をするのが事情に困難というところがあるわけでございます。例えば、南鉄の便の中でも利用者数が少ない便というのは、これはもう決まっているんです。その便に限って無料にするということは可能です。しかし、町民の方と町民以外の方の区別をするのが非常に難しいということと、それをするための人員が非常にいないということと、やはり明確に分かる方法が必要であるということだと思っております。例えば、町民の方に無料乗車券を事前に配布して、それをこの便には適用できませんということになれば、どうせ、例えば、がらがらで走っているんだったら乗せたほうがいいんじゃないかというお考えもよく分かりますので、これはもう南鉄だけじゃなくて、本来だったらバスもそうじゃないかなと。運行側にお金は払わなければいけませんけど、つまり貸し切りいうところができるのではないかなと思っております。ちなみに、南阿蘇鉄道貸切車両は、片道6万円ぐらいですかね。なので往復、それ掛ける2にすればいいんですけど、立野から先の料金はJRで発生いたしますので、そこは負担してもらわなければいけないというふうに思っております。臨時便貸切り、もしくは既存の便の無料化ということは、予算さえあれば可能だということと、町民の方と町民以外の方の区別ができれば、乗られるときに、それは可能ということでございます。

また、通勤快速、今で言うと通学快速になりますね。これは将来考えるべきかなと思っております。現在、例えば、朝の便は乗車率が、以前はほぼあまりなかったんですけど、今17.7%、これは朝で17.7%ですので、かなりこちらから高森発でそれだけですので、かなり多くなってきています。つまり定期通学・通勤の方ですね、ほぼ通学じゃないかなと思っております。人数にいたしまして、1か月で、もう直近の11月の実績で片道で4,300人いらっしゃいますので、かなりの人数じゃないかなというふうに思っております。この通勤通学される方は、途中降りることないんです。ですので、極端なことを言うと、高森、中松、立野、肥後大津が一番早いわけでありまして、そのためには途中でもし定期買われている方、もしくは乗られる南阿蘇村の方がいらっしゃれば、当然、止まらなければいけませんので、事前の計画というのが非常に必要になるのではないかなと思っておりますが、目的として、県立高森高校に通う子供たちがこれだけ増えてきております。来年からもっと増えますので、例えば、本当に通学快速と、臨時便と毎日通学快速は出すということという

のは可能だというふうに思っております。また、同時に乗り入れも増やしていくべきだと思いますし、現在、JR九州と南阿蘇鉄道に対して、そういう要望を現在まとめているところでございます。

先ほど町民バスについて、ほとんど乗られてないと、バス等とも含めてですね。年間相当なお金というのを出しているわけですね、町民バスに関して。これもっとうまく利用できないかと。これは多分議員さんも委員会でライドシェアの視察をされたということですけど、どこの自治体も、要は市民、町民、村民バス運営に非常に苦慮しているわけなんです。私もこの間、軽井沢と嬬恋村に行ってきましたが、どちらも同じ今実証実験をなされているところです。一番難しいのが、最終的に通常の町民バス、軽井沢町民バス、村民バスは出されておりましたので、要は、お金は使っていたんです。民間の会社ももう人手が少なくなってきたので、都会ですよ。なので、町や村でもっと利便性がいいのを作ろうというところなんです。実際やられてはいますが、一番大変なのが、実はオペレーションなんです。両町村言われるのが、町民の方、村民の方、移住されてきた都会から来られた方というのは、まずバスは使われないと。これはどちらも一致していました。非常に少ないと、利用が。もともとの地元出身の方が、あの軽井沢でも地元出身の方がほとんど使われている。その地元出身の方が一番言われるのが、役場の職員がオペレーションしてほしいと。つまり、外部委託でオペレーションを、要は民間の会社がやると利用が極端に落ちるといふか、トラブルが発生するそうなんです。つまり、町民バスといふかドアツードアですので、つまり、ちょっと大変だけど5分待ってくれとか、例えば、今日はここじゃなくてここにしてくれないだろうか、極端な例を言いますと。そういうところのニーズが非常に多いと。ああいう都会でもですね。だから、役場の職員さんがすごく困られておりました。困られたといふか、要は、外部委託をしたいけど、外部委託しても実績が出てこないというところです。役場の中にオペレーションを作って、役場の中でバス運営をやっていたきたい。民間の会社に委託しても、あまり効果がないというところが、ほわっとした結果だったと。でも、今は民間の会社と協力をされているんです。ですので、どちらも、要はバス停留所が非常に多くなっているんです。もう細かく停留所を作られていますので、つまり止まる時間が一つ一つにあるから、最終的には目的地に行かれる方が、例えば、御地元の草部北部から役場が目的地だった人にとって見ると、停留所がいっぱいあって着くので、ものすごく時間がかかるというところなんです。ですので、すごくこれは難しいし、今後、ここの公共交通というところを、やっぱり考えなければいけない。公共交通の定義といふか基本は、きちんと決まった時間にそこに止まるというのが公共交通の第一意義ですので、そこがやっぱり信用につながってきますので、

なので、やっぱりそこも含めると、なかなか住民の方が実際求める交通手段と行政がやることと、そこが違ってくると。しかし、バス会社に委託をずっとこのままやっても、かゆいところに手が届く運行にはならないと。だから自治体ライドシェアを導入して、まずは空白時間をどうやったら埋められるのかというところを研究していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（牛嶋津世志君）3番、児玉幸之助君。

3番（児玉幸之助君）まずは、この貴重な時間を与えていただきまして、御答弁いただきまして、まずはありがとうございます。

私も一町民として山頭部に住んでおりますが、いろんな利便性とか、高齢者だったり子供の状況だったり、いろんな部分を含めた上でも、やはりこのライドシェアというのは、一つ一つをクリアしながら、高森方のライドシェアというものを作っていたきたいなと思っています。そして、近い将来、高森に住みたいと言えるような、移住型であったり、町民の皆さん一人一人が不便さを感じないような気落ちであればいいなと思いますので、ぜひ近い将来、3年後、5年後を見据えた上で、幸福度ナンバーワンの高森をいろんな形で目指していただきたいなと思います。そして、一人一人が稼げる高森町であれば、いろんな形で物事が進むのではないかなと思っています。

この師走に風邪をひかれないよう、皆さんも健康管理に留意していただいて、そして、新しい新年に向かってやっていただければなと思います。今日は御答弁ありがとうございました。質問を終わらせていただきます。

議長（牛嶋津世志君）3番、児玉幸之助君の質問を終わります。

ここで、しばらく休憩を、昼食時間がありますが、佐藤議員、昼食を入れて午後からよろしいですか。

4番（佐藤武文君）どちらでも。

議長（牛嶋津世志君）それでは、ここでしばらく休憩したいと思います。御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

議長（牛嶋津世志君）それでは、13時、午後1時から始めたいと思います。よろしくお願いたします。

-----○-----
休憩 午前11時38分
再開 午後 1時00分
-----○-----

議長（牛嶋津世志君）休憩前に引き続き、一般質問を続けます。4番、佐藤武文君。
4番（佐藤武文君）4番、佐藤です。

令和6年最後の一般質問に立たせていただきまして、ありがとうございます。

また、午後の時間で少しきつい方もあるかもしれませんが、どうぞお付き合いをいただきたいと思います。

今回の一般質問は、本町の文化財の保護や文化活動への対策について伺わせていただきたいと思います。

まず、本町の指定有形文化財や史跡、その他の文化財には、現在、それぞれに標木が立てられ、数年前には一部標木の更新も行われておりますが、中には更新されていないものや、説明文の誤りと思われるものが複数ございます。本町の文化財については、平成28年、高森町の文化財という本が教育委員会から発刊されておりますが、改めて分類ごとの文化財の指定件数や登録件数、保護の状況について伺います。よろしくお願いいたします。

議長（牛嶋津世志君）教育委員会事務局長、村上純一君。

教育委員会事務局長（村上純一君）高森町の文化財の指定等の状況ですが、国の重要文化的景観として上色見地区の根子岳南麓の草原景観が1件、国記録選択の無形民俗文化財として高森のにわか1件、また、国の特別天然記念物のニホンカモシカが1件、国の登録記念物の名勝地として白水の滝が1件ございます。県の指定文化財は、尾下菅原神社の獅子舞、峰の宿バンバ踊りの2件でございます。町の指定文化財は61件ございます。このうち上色見熊野座神社などの有形文化財が16件、風鎮太鼓などの無形民俗文化財が6件、高森城址などの史跡が39件あります。

文化財の保護の現状ですが、当町の指定民俗文化財である高森阿蘇神社の神楽、峰の宿バンバ踊り、前原仁田神社神楽、上色見熊野座神社神楽、草部吉見神社神楽、高森のにわかにつきましては、高森町の無形民俗文化財の補助金を活用しまして、次世代へ継承するための活動を支援しております。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）4番、佐藤武文君。

4番（佐藤武文君）4番、佐藤です。

今、文化財の指定や保護の状況について答弁がありましたけれども、私が指摘した標木の未更新や説明文の誤りについては触れられておらず、少し残念に思います。標木を設置した教育委員会の責任として現状を調査され、速やかに対応されるようお願いいたします。

さて、去る8月23日付の熊日新聞に、尾下出身の甲斐有雄さんが、江戸末期から明治にかけて残された道標等を調査している民間グループに関する記事が掲載さ

れましたけれども、私も改めて、甲斐有雄さんの功績とそれに対する本町の取扱いを見てみましたところ、同氏の頌徳碑2件は、史跡として高森町が指定しておりますし、平成27年に高森町教育委員会が作成した郷土資料「高森の心」には道標に残す言の葉として掲載してあるものの、現存する道標そのものの把握や保存については、全く手が付けられていないというふうに分かりました。ちなみに、南阿蘇村では、約30件の道標や句碑に標木や説明板を設置し、文化財として取り扱っております。令和4年に改正文化財保護法が施行され、地方自治体は条例の定めるところにより重要文化財等以外の文化財で、その区域内に存するもののうち、その文化財としての価値に鑑み、保存及び活用のための措置が特に必要とされるものを当該地方公共団体の文化財に関する登録簿に登録できることとする。

また、地方公共団体は、登録した適当であると使用するものについて、文部科学大臣に対し国の文化財登録原簿への登録を提案できるとされていることは御存じのことと思いますけれども、甲斐有雄氏が生涯で立てた道標や句碑は、1,900基以上にもなると言われておりますけれども、現在、道路工事や過疎化の進展に伴い、その多くが所在不明になっているとともに、その存在を知る人自体が年々少なくなっています。そのようなことから、今のうちに判明する分だけでも文化財として登録し、後世に残す必要があるのではないかと考えます。登録するまでには、本町の条例の改正などの手続も必要であり、相当の時間を要するので、とりあえず町民の皆さんに情報の提供を呼びかける。道標などの存在を把握することも必要ではないかと考えます。

また、その他本町には、現在指定されている文化財以外にも多くの文化財があり、今後、指定の追加や見直しを行う必要があると思っておりますが、そのことについてどのようにお考えか伺います。よろしく申し上げます。

議長（牛嶋津世志君）教育委員会事務局長、村上純一君。

教育委員会事務局長（村上純一君）まず、近年の高森町の文化財の追加状況について御説明いたします。近年の高森町の文化財の追加指定等の状況ですが、高森のにわか、先ほど御紹介しましたとおり平成31年に国の記録選定の無形民俗文化財に選択されております。その後、令和2年に高森町の民俗文化財に指定したところでございます。高森のにわか、今、町の指定民俗文化財ですが、今後は熊本県の民俗文化財の指定に向け熊本県と協議をしましてまいります。

次に、熊本県と阿蘇郡市7市町村と合同で設立した阿蘇世界文化遺産登録推進協議会は、阿蘇の世界文化遺産登録推進のため、阿蘇の文化的景観の追加選定事業を進め、当町の根子岳南麓の草原景観について、令和7年度以降、熊本県と合同で調査を行い、当町は国の重要文化的景観の追加選定の申出に向け取り組んでまいりま

す。

また、当町は現在、高森町史編さんの事業を進めております。自然編、歴史編、文化・産業編の刊行を予定しております。その町史編さんの事業に伴いまして、これまでの調査で分かったことや、佐藤議員がおっしゃられる甲斐有雄さんの道標をはじめ、町の指定文化財として価値づけすべきものがあれば、文化財保護委員の意見を聞きながら、指定文化財の追加指定の必要性について検討してまいります。

以上です。

議長（牛嶋津世志君）4番、佐藤武文君。

4番（佐藤武文君）今の答弁では、追加指定の必要性について検討しますということですが、先ほど言いましたように、いろんなことを知っている方がいらっしゃる間に多くの調査をする必要もあると思いますから、時間は多く残されておられません。少なくとも早急に調査・把握だけでもされるように、改めてお願いをいたします。

次に、以前から私が取り上げているものの中に、本町の過疎化、人口の減少ということもありますけれども、このことは文化財の保護に関して大きく影響すると思います。文化財の中には、管理者や所有者が既に亡くなったり、また、いらっしゃっても町外に在住されていたりして、また過疎化が進んだ地域では、その地域だけでは保全できない文化財も多くなっています。町は文化財保護条例に基づいて指定された文化財については、管理や修理に対して補助することも必要と思いますが、先ほどから話しておりますように、様々な文化財があります。今後、全体的な文化財の保護対策についてどのようにお考えか伺います。よろしくおねがいします。

議長（牛嶋津世志君）教育長、古庄泰則君。

教育長（古庄泰則君）今、議員御指摘のとおり、少子高齢化により文化財保護の後継者や現存する文化財の劣化、後継者不足とか劣化が課題とされておりまして、文化庁は平成30年度に文化財保護法を改正し、都道府県においては文化財保存活用大綱、市町村においては文化財保存活用地域計画を策定することができるというふうになりました。実際、熊本県では令和3年度に熊本県文化財保存活用大綱が策定をされ、県内文化財の保存活用の推進、文化財保護体制の構築、人材育成などが講じられているところです。当町におきましても、人口減少、少子高齢化により、先ほどお話がありましたように、後継者の不在、所有、管理者が不在になった場合の有形文化財の維持管理、神楽などの民俗文化財の伝承・継承が困難な状況になりつつあります。これらの課題を解決するため、県の大綱に基づき指定もしくは未指定文化財を含めた文化財の総合的な保存、活用を図ることで、地域の文化財を守り生かすことができると考えており、今後、文化財保護法に基づく本町の文化財保護活用地域計画の策定を検討したいというふうにご考えているところでございます。

以上でございます。

議長（牛嶋津世志君）4番、佐藤武文君。

4番（佐藤武文君）今後、文化財保護法に基づく当町の文化財保存活用地域計画の策定に着手したいとの答弁でありましたけれども、先ほどから何度も申しますけれども、把握調査だけでも相当のマンパワーと時間を要すると思います。近年は学芸員も配置されておりますけれども、現状の教育委員会の体制では、到底対応できるものではないと思いますので、それこそ地域おこし協力隊の活用や町民の方々、民間グループの協力を仰ぐなど、その体制整備から始めていただきたいと思います。

最後に、町長は4期目のマニフェストにふるさと高森に誇りを持ち、夢と希望あふれる教育のブランド化を目指すと掲げられておりますが、ふるさと高森に誇りを持つということは幅広く、例えば、文化財や歴史であったり、甲斐有雄さん以外にもいろんな分野で功績のあった先人たちも誇れるものの一つであると考えます。今後、時代、世代の変遷とともに、様々な貴重な文献や資料が散逸する可能性が高く、保存展示できる施設が必要ではないかと常々思っています。文化はそれぞれ個人の価値観や嗜好で幅が広く、それをどのように理解、共感するかも人それぞれではありますが、だからこそ資料館や文化施設を設け、様々な文化活動を応援する対策も必要と思いますが、町長はどのようにお考えか伺いたいと思います。よろしく願いします。

議長（牛嶋津世志君）町長、草村大成君。

町長（草村大成君）選挙のマニフェストに載せていたとおりでございますが、その中で誇れるふるさと高森のための文化活動対策と、特に今大事な、今やっておかないと、後になったらなかなかまとまらないぞというところ、これも文化歴史資料も含めてそういう御質問でございました。

まずは、ふるさと高森のための文化活動対策ということですので、現状としては、先ほど教育長の答弁に少しありましたが、地域にとって誇れるコミュニティ、神社仏閣等々ございます。その活動の維持が非常に難しくなっている。これが現状であるというふうに思っております。つまり、維持が難しいと継承が困難になってくると。それが今後の文化活動対策をそこに対してやってこななければいけないと思っております。

また、一方では、効果があるところでは、熊野座神社、上色見ですね。大変文化財の活用が地域経済にインパクト効果を与えているという例もございます。

また、資料館というお話がありましたが、これはある意味、町の文化歴史の情報発信の拠点にもなりますが、ここに関して言いますと、当町では町立の資料館はございませんが、草部に草部郷土資料館がございます。これはこの資料で令和3年度

の地方創生整備交付金と地元出身の企業家の方からの寄附金を活用し、すばらしい郷土資料館が完成しております。現在、令和4年以降、多くの方が、これはここに訪ねてきていただいております。これは来年度のお話にはなりますが、ここは地方創生整備交付金を使ってありますが、これの進化型、つまり、そこに効果があった場合は、これにさらに追加できる事業がございまして、佐藤議員の御質問をいただきましたが、それ以前に教育委員会のほうには、この草部の郷土資料館を町の歴史文化発信拠点の一つとして位置づけて、今後は郷土資料館の中身、内容、内装、展示内容の見直し、草部のみならずできるもの、町としてしっかりそこを見直していきたいと。そのために地元とのお話も進めているところでございます。

また、一方では、議員がおっしゃるように、法律の改正に基づく地域計画ということで、これ公言するのはできるんですけど、おっしゃったとおり、時間がどれだけかかるか分かりません。また、マンパワーも必要となりますし、体制も必要です。ただし、この計画が将来の高森町の順次に守っていくための計画づくりですので、きちんとした中長期的な計画としては必要性が非常に高いというふうに考えておるので、検討をしていきたいというところが教育長のコメントでした。

そして、今は文化財と、今までのあるものに対して現状と今後の今考えていることということですが、それもそうでございますが、実は、4期目に就任いたしまして、地域にやっとコロナが収束しているんなとこに出かけるようになりました。先般も祖母神社も含めて道路のことも含めて、いろんな町内のところに出かけていて、必死に一生懸命、地域の方が地域の誇れるコミュニティとして守ってきていただいておりますが、先ほど申し上げましたように、非常に超高齢化ということと人口減少ということで、守りたいが昔のようにはなかなか活動ができないと。同時に、目が行き届かなくなってきたと。また、もしくは地域としてなかなかここは対策ができないというお声を多々、近くの町内でもお聞きしております。私としては、これは今後、文化活動対策として高森町の文化財保護委員会、もしくは、ちょっと要項の中身の設置の部分のところとは、現時点では合いませんが、そこも変更をしていただきまして、例えば、高森町の文化協会とも連携して、今後、指定・未指定文化財を問わず、神社仏閣等などの地域コミュニティに対して、これは災害対策も含めて環境整備を行いたいと。これが喫緊の課題、すぐやらなければいけないし、やれることかなというふうに考えております。令和7年度の当初予算に政策として、神社仏閣等の環境整備、つまりいろんな形でのバックアップの費用を盛り込みたいというふうに、私自身考えているところでございます。

以上でございます。

議長（牛嶋津世志君）4番、佐藤武文君。

4番（佐藤武文君）町長には答弁ありがとうございました。

日頃からコミュニティを大事にするということで、公民館の改修とかそういうことに注力されてまいりましたので、今後の対策について十分期待をさせていただいてよろしいのかなというふうに思いました。

文化財の保護とか文化活動について、これは一般的には実生活に直接つながるような政策ではないと思われる方も多いかと思えますけれども、先ほども申し上げましたとおり、文化財や歴史等は町民の誇りであります。

また、本町町民、本町出身の方、本町に関わりのある方にとってはアイデンティティ、いわゆる高森の心であると思います。これらを次の世代に継承することは、今に生きる我々に課せられた大きな課題の一つであると考えております。町もその中心となって、様々な対策を取られるようお願いして、今回の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（牛嶋津世志君）4番、佐藤武文君の質問を終わります。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

-----○-----

散会 午後1時26分